

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2025年5月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2025年5月12日～5月31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 133社
- 回収率 66.5%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 仕入単価：(下落) - (上昇)

販売単価：(上昇) - (下落) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の5月の状況を見ると業況DIは、前月より3.1ポイント悪化の▲17.3となった。

2017年9月以来93ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3カ月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲15.8、当月と比べ1.5ポイントの改善が見込まれる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2024年 12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2025年6月～ 2025年8月
業況	▲15.1	▲22.4	▲21.2	▲15.5	▲14.2	▲17.3	▲15.8
売上	▲5.5	▲9.7	▲7.6	▲3.9	3.7	0.8	5.3
採算	▲23.0	▲26.8	▲27.3	▲17.8	▲15.7	▲18.8	▲12.8
仕入単価	▲69.0	▲64.9	▲62.1	▲64.3	▲70.2	▲56.4	▲45.9
販売単価	41.2	35.9	26.5	37.2	29.1	24.1	23.3
従業員	33.3	34.3	32.6	28.7	36.6	33.8	34.5
資金繰り	▲11.2	▲11.9	▲13.6	▲8.6	▲8.2	▲11.3	▲9.8

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2024年 12月	2025年 1月	2月	3月	4月	5月	先行き見通し 2025年6月～ 2025年8月
建設	▲23.3	▲35.5	▲34.4	▲30.0	▲29.0	▲21.2	▲9.1
製造	▲12.9	▲27.3	▲32.4	▲9.4	▲16.7	▲24.2	▲20.7
卸売	▲3.6	▲10.0	▲7.4	▲14.3	0.0	▲7.4	▲18.5
小売	▲10.6	▲27.8	▲38.9	▲25.0	▲26.3	▲36.8	▲31.6
サービス	▲27.7	▲9.1	14.3	0.0	0.0	0.0	▲4.0

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・ラビダス稼働による人材の一極集中は建設業界にも及んでくるとされる。いよいよ新規採用が難しいので、会社としての具体的な対応策を早急に整える。（総合工事） ・原材料や労務費高騰に加え、人材の将来的な確保や工事量の確保など、経営環境は一段と厳しさを増している。政府には、消費全体を活性化させるような景気対策を期待している。所得向上や物価の安定を通じて消費意欲を高める政策こそが、景気回復の鍵になると考える。（設備・その他） ・大きな物価変動等が無ければ向こう1年程度は現状の採算を維持できると考えている。財政悪化による公共事業の減少や民間設備投資の減少幅が大きくなるのがいつになるのか不安材料。売価上昇による顧客離れ。（設備・その他） ・住宅価格上昇と他社との競争により成約率が低下し今後の受注確保が課題である。キャンペーン実施により顧客獲得を目指すも現状はお客様の反応や反響に乏しく新たな取り組みを模索中である。（建築業） ・人手不足が深刻で売上げ増加に繋がる施行が出来ない状況。（建築業）
製造業	・人員不足が解消されない状態が続いている。売上増は主力商品の在庫があったこと。経費が昨年以上に増えている。（食料品） ・商品値上げによる売上増だが、客数が前年を下回っていることが不安要素。（食料品） ・一部樹種の原材料不足。（家具・木材） ・政府経済対策が迷走気味で買い控えの微候がある。（金属窯業他）
卸売業	・特に小売店(地方)の来客頻度が落ちているとことで、衣料品は我慢し食料品に目が行っているようだ。（繊維・衣服等） ・可処分所得が減少し、価格高騰の影響により嗜好品の景気を大きく悪化させている。特に現状に歪を抱えている団塊ジュニア世代の購買意欲は年々後退して行き、企業にとっての就職難で初任給の恩恵を受けた世代の購買活動は30・40歳代を上回っている。20歳世代に向けての発信がカギになってくる。（その他） ・当月の業況は前年同期に比べやや増加。今後年央にかけて閑散期に入り売上はしばらく足踏み状態が続くとみるが、この時期に積極的な推進活動を実践することで顧客ニーズの発掘に努め、年後半には前年並みに回復するものと見込んでいる。（その他）
小売業	・ゴールデンウィークは毎年来店客数が多くない。5月3週目から25度以上の気温になり、夏使用のウインドウディスプレイに変更し来店客の購買意欲を高められるようにしている。商品価格が高騰(原材料)しており、販売が大変難しくなっている。SNSにて顧客に新入荷商品をアピールし来店を促している。（衣服身回品） ・インバウンドの来店数の減少による店舗トータル売上の減少。日本人観光客の購入単価下落。（食料品） ・5月30日～6月15日で開催の「菓子博」への来場客増加に期待している。（食料品） ・物価上昇による節約志向が拡大し、連休の需要も減少した。販売競争が過熱気味で採算性が低下している。（その他） ・トランプ関税の影響により今後の親会社の損益が悪化することが予想されており、国内販売での利益増を求められているが、当社は2年連続で賃金を上げており、今月は営業費・販管費・仕入コストの増加分を売上でカバーすることができず厳しい業況を予想している。（自動車）
サービス業	・生活費が向上しているため、清掃用品にかかる金額が減っている。（理美容・クリーニング） ・仕入・販売単価上昇のためビジネスとしての利用がしづらい状況。また観光シーズンに入るが、市内にバス(大型)駐車場が少なく団体での受け入れも困難な場合がある。（ホテル・旅館） ・インバウンドが好調であるため、ホテル関連製品及びサービスの需要も増加し、売上及び利益は好調であったが、医療・介護業界は相変わらず逆風であるため、全社的な業績を押し下げる要因になりつつある。（その他） ・各保険会社による板金修理における時間工賃の見直し改定は業界にとって上向き傾向ではあるが、今後の設備投資や賃金ベースアップを考えるとまだまだ厳しい状況は続くであろう。（整備業） ・GW 期間中の増客に期待していたが、天候やカレンダー並び、大阪万博の影響もあるかもしれないが例年より人の動きは低調であった。コロナ期の借入返済資金、設備投資資金計画・人件費・人員不足問題と難題多数。経営管理指標の更なる明確化が急務。（運送）

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI6.7 ポイント改善、採算 DI1.8 ポイント改善、仕入単価 DI7.4 ポイント改善、販売単価 DI1.8 ポイント改善、資金 DI3.8 ポイント改善、従業員 DI12.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.8 ポイント改善となったが、「悪化」から「不変」への変化が主因であり、実態はほぼ横ばい。業種別では、総合工事、設備・その他横ばい、建築業 32 ポイント改善となった。従来の顧客受注が減り新規顧客の開拓と物価高で材料費が高騰のため見積り段階で難しい状況との声も寄せられている。
製造業	売上 DI23.7 ポイント悪化、採算 DI4.1 ポイント悪化、仕入単価 DI11.6 ポイント改善、販売単価 DI7.8 ポイント改善、資金 DI20.4 ポイント悪化、従業員 DI0.5 ポイント増加し不足感が強まった。総じて業況 DI は 7.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 14 ポイント改善、金属窯業他横ばい、印刷・出版 20 ポイント、家具・木材 26 ポイント悪化となった。エネルギー価格・労務費等のコスト増や価格転嫁、国際情勢等との声も寄せられている。
卸売業	売上 DI 横ばい、採算 DI14.0 ポイント悪化、仕入単価 DI9.9 ポイント改善、販売単価 DI4.4 ポイント悪化、資金 DI4.2 ポイント悪化、従業員 DI1.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 7.4 ポイント悪化となった。業種別では、その他 3 ポイント改善、食料品横ばい、繊維・衣服等 17 ポイント、機械鋼材 14 ポイント悪化となった。前年度と同等の業況であるとの声も寄せられている。
小売業	売上 DI10.4 ポイント悪化、採算 DI5.2 ポイント改善、仕入単価 DI42.1 ポイント改善、販売単価 DI36.8 ポイント悪化、資金 DI5.3 ポイント悪化、従業員 DI5.2 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 10.5 ポイント悪化となった。業種別では、食料品、その他横ばい、衣料品 50 ポイント、自動車 20 ポイント悪化となった。仕入れ価格も高止まりの傾向が続いており、販売価格上昇により需要が減ってきている状況との声も寄せられている。
サービス業	売上 DI12.0 ポイント改善、採算 DI 横ばい、仕入単価 DI8.0 ポイント改善、販売単価 DI4.0 ポイント悪化、資金 DI12.0 ポイント改善、従業員 DI28.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は横ばいとなった。業種別では、その他 23 ポイント、飲食 5 ポイント改善、ホテル・旅館、整備業、運送横ばい、理美容・クリーニング 50 ポイント悪化となった。公共工事は前年度並みの水準を維持する見通しだが、民間工事については建設資材価格高騰やトランプ関税の影響により、大幅な減収が予想されるとの声も寄せられている。